

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:31人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(R4.3月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤアマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のもとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

令和3年度 自然再生協議会全国大会(オンライン開催)

【報告者】広島県自然環境課 池部七重

昨年度に引き続き、自然再生協議会全国大会はオンライン開催(R3.12.22)となりました。

「自然が持つ健康効果～自然セラピーで生理的にリラックス～(宮崎良文医学博士)と、「自然再生と地球温暖化対策」(森本幸裕農学博士)というテーマで講演がありました。

森林内を歩行するだけで、血圧の調整機能があることや、ストレスホルモンが軽減されることなど、実験や研究が進んでいます。自然セラピーでは、直物由来の自然の刺激により快感を生み出します。公園、木材、花なども含めてセラピーの効果があるという医学的観点からのお話は、経験があり、理解しやすいとても身近な内容でした。

また、京都市の事例で、「雨庭(あめにわ)」について紹介されました。洪水調節、地下水の涵養、水質の浄化、ヒートアイランド現象の緩和、自然体験の場の提供、生物多様性の保全など多くの機能を持ち、都市緑化の分野での地球温暖化対策として有効性について説明されました。近年頻発する豪雨災害に対する効果が期待されます。

後半は、関係省庁からの情報提供と、動画を活用した情報発信についての説明でした。スマートフォンと手振れ防止の道具を使用することで気軽に撮影でき、写真をスライド状の動画にすることもできます。

その後、グループに分かれて、意見交換を行いました。各協議会、設立の経緯は様々ですが、高齢化や会員の減少を食い止めるため、人集めの工夫について意見を求める方が多くいました。ゆるキャラによりPRしたケースや、農産物や原木などの販売、環境学習、観察会の開催、ボランティア養成講座など取り組み方はそれぞれですが、先行きの不安を感じている点は共通していました。

【協議会の情報発信方法と効果について 事前アンケートから抜粋】

発信方法として利用しているのは

- ①Webサイト、ブログ
- ②チラシ、リーフレット、ポスター
- ③広報誌

そのうち効果が最も得られているのは②チラシ、リーフレット、ポスター

今後取り組みたい発信方法は

- ①YouTube
- ②チラシ等、Instagram、Twitter

活動案内等情報発信のため動画を利用しているのは12件あったが、そのうち積極的に利用している、利用しているは合わせて4件

協議会の取組を一般向けにアピールするための工夫

- ①公教育での環境学習との連携
- ②エコツアーの企画
- ③他施設等でのタイアップ展示



第32回八幡湿原自然再生協議会協議会開催(R4.3.20)

新型コロナウイルス対策のため、令和元年度から令和2年度まで協議会を書面開催としていましたが、3年ぶりに対面で開催しました。活動状況の報告等と合わせ、今後の長期的な計画について活発に議論しました。なかなか以前の生活様式と同様にはなりません、徐々に通常の活動ができるよう願っています。